



はじめのいっぽ

令和4年度
8月号

令和4年7月29日

認定こども園

東野田ちどり保育園

東野田ちどりキッズ・庁舎内

江川 永里子

三回目のコロナ禍+もどり梅雨の夏!!となりました。

二年ぶりの安田式プールは、1クラスずつ楽しんでいます。熱中症対策を重視しつつ新型コロナウイルスの恐ろしさと背中合わせの状況です。

「変異株 BA.5」は、今までのコロナを結合した拡散力、重症度共に高い株のようです。長い間のコロナ対策において「いったいいつまで…」という思いの中で日々工夫出来る事を追求し続けています。



園では今年も夏野菜(トマト・キュウリ・ナス・ピーマン)が豊作でした。

厨房で調理してもらい皆でご馳走になりました。自分達で育てた野菜を口にする子ども達は、野菜嫌い苦手克服になった子どももいました。

「旬」の食べ物の力!!について各クラス話し合う良い機会になりました。



～アドラーより～

子どもの課題に口を出す弊害

子どもから頼まれもしないのに、親が子どもの課題に介入して口を出すと、次のような弊害がおこるかもしれせん。

1. 自信を失う

子どもは、「親が手伝ってくれたから課題を解決できたけれど、もし手伝ってくれなかったら、自分ひとりでは解決できなかつたんじゃないか」と感じるかもしれせん。そういう体験がくり返されるうちに、「自分ひとりで人生の問題を解決する能力がないんだ」と思い込んでしまつて、自信を失うかもしれせん。

これでは<自立する>という子育ての目標が達成できなくなつてしまいます。

2. 依存的になる

子どもは、「なんだ、自分で考えなくても、親がかわりに考えて、課題を解決してくれるじゃないか」と感じるかもしれせん。そうなると、いつでも「私にはできない。かわりに解決して!」と、依存的になつてしまうかもしれせん。これまた<自立する>という子育ての目標から遠ざかつてしまいます。

3. 反抗的になる

積極的なタイプの子どもは、「自分でできるんだから、余計なおせっかいはしないでくれ」と感じて、反抗的になるかもしれせん。そうなると、ほんとうに親や他の人の援助が必要なときでも、むきになつてひとりで課題を解決しようとして、かえつて失敗することだつてあるかもしれせん。また、他の人と調和して暮らしていくことが苦手になるかもしれず、そうなると<社会と調和して暮らす>という子育ての目標が達成できなくなります。

4. 失敗を人のせいにするようになる

課題がうまく解決できればいいのですが、解決できなかったとき、あるいは「親が手を出さうまういかなかつたんだ」と言つてみたり、あるいは「親が手伝ってくれないからうまういかなかつたんだ」と言つてみたりして、失敗を人のせいにして、自分で責任をとろうとしなくなるかもしれせん。

5. 親が忙しくなる

不必要な手伝いをしているひと、ひどく忙しい生活になつてしまいますよ。